

七月二十日、私は「富士山クリーンツアー」に参加し、青木ヶ原樹海で不法投棄されたゴミを回収しました。

普段はあまり富士山や自然界と関係なく都会に住んでいる私が、なぜこのツアーに参加したかというところ、母に、「少しは環境について考えてみなさい。」と言われたからです。私は環境についてはたくさん勉強してきましたし、家でもビンや紙パックやカンなどリサイクルに出しています。更に節電や節水もしており、環境については十分配慮していたつもりなのですが、行っても無駄だと思っていました。しかし、今美しい自然が次々と減んでいく中で、私たちは視野を広げ、「できることから」もつと深くやらなくてはいけないと思うようになってきたのです。

現地に着くと、ゴミを拾う必要もないように思えてきました。それは、ゴミなんか少しも見あたらず、土の匂いや自然の匂いが私を包み込み、見渡す限り遠くまで続く樹木は十

分に保護されている大自然のようでした。
けれど、スタッフの方によると、木のへら
で土を掘り返すと土の中からたくさんのゴミ
が出てくるそうです。その通りにやってみよ
うと思いましたが、最初はなかなかゴミも見
つからないし、自分の服や靴を汚したくない
という思いが積もり、やる気をなくし、ただ
座り込んでゴミを拾うように見せかけている
だけでした。
その時、私の近くで土を掘っていた女性の
方が、
「わーすごい！　こないっぱいあるわよ。」
と驚きの喚声をあげました。皆の顔が興味に
満ち、その場所に行ってみるとそこはまるで
ゴミの埋立て地のようでした。ウイスキーの
ビン、アルミ缶、電池、ガラス、鉄の塊など、
とにかくたくさん埋まっています。それを
見ると私はとても夢中になり、その近く一帯
のゴミを拾っていきましました。服や靴の汚れな
んか気にせず、もう私の目にはゴミしかあり

ません。
拾っても拾っても次々にゴミが出てきて、
それを拾う皆の目は、とても高価な宝を拾っ
ているかのようにキラキラと輝いていました。
あつという間に時間が過ぎ、私たちが拾っ
たゴミはトラック一台以上の量になりました。
その時は何とも言えない達成感に満ち、地球
を救ったヒーローのような気分になりました。
こんなにも多くのゴミがある理由は、以前こ
の近くにロッジがあり、そのオーナが不法
投棄していたからだそうです。その後ロッジ
は倒産してなくなりましたが、ゴミだけが土
の中に残ってしまっただけです。
私は街でゴミを拾っている人を見ると、恥
ずかしくないのか、とか、どうせ拾ってもま
たゴミは増え続けるからそんなことをしても
無駄だろう、と少し馬鹿にしたような目で見
ていましたが、今、その人たちの気持ちがあ
ったような気がしました。その人たちは少
しでも地球のゴミが減ることを信じ、「できる

ことから」を実行しているのだと思いました。

人がゴミをポイ捨てしてしまう理由とは、自分のことしか考えられないからだと思います。人に迷惑をかけると知りながら、自分が出したゴミをすぐそこにあるゴミ箱へ捨てず、公共の場に捨ててしまう。今、自然を守ろうと必死になって努力している人がいます。しかし、自分のことしか考えられない人たちがいるせいで、多くの人々の努力が無駄になってしまいます。

それを改善する方法は、世界中の人々が環境について熟慮断行し、国益を捨て、一つのチームとして問題を解決しなければならぬと、今回の機会を通して改めて強く考えさせられました。

同行してくださったアルピニストの野口健さんは、

「私は冒険家です。冒険家は山に登ることだけではなく、ゴミを通して環境について考え、小さな努力を重ねることも冒険です。」

とおっしゃっていました。私たちは今こそ冒険しなければなりません。私たちがゴミを回収した富士山は遠くから見るととても美しいですが、海外の登山家から「ゴミ山」と言われているほど悪評が立っているそうです。その評判どおり、捨てられたビニール紐でできた鳥の巣、ゴミを銜える白鳥、釣り針が刺さって死んでしまう白鳥等、人間の浅はかな行動のせいでたくさんの方が犠牲になっているそうです。人間がほんの少し工夫や努力をしたら、命は無駄にならなかったのかもしれない。富士山が「ゴミ山」と言われず、人間や動物や植物が安心して暮らせるような世界を誰もが見望むでしょう。

私は少しでも地球を救うために、これからヒーローになり、冒険をしに行きたいと思っています。